

# 東京経済大学報

2022 年度

第55巻 11 月臨時号



## 第 123 回葵祭レポート

東京経済大学の地域活動

イギリス・チチェスター英語研修体験談

学生記者が行く！先生インタビュー

東経大で出会った「生涯の師」への手紙

イマドキのTKU生

[東京経済大学](#)

# 第123回葵祭レポート

2022年10月28日(金)～10月30日(日)

私たちが取材に行ってきました！



コミュニケーション学部3年  
小布施知優さん



経営学部3年  
有山詩織さん

東京経済大学の秋の風物詩である「葵祭」(大学祭)が3年ぶりに対面形式で開催されました。

今回は学生記者が、3日目[10/30(日)]の様子取材しました！



## 模擬店

模擬店は主に、屋内の展示企画と屋外の屋台で展開され、各模擬店ごとに個性のあふれるものとなりました。屋内では、1号館と葵陵会館内を中心にさまざまな団体が活動内容の紹介や作品の展示を行い、実際に来場者が体験できるコーナーも設置されるなど、盛り上がりを見せました。また屋内展示を対象としたスタンプラリーも開催され、来場者は各団体の展示を回りながら、楽しそうにスタンプを集めていました。

屋外では、型抜き、チョコバナナ、アップルパイ、大学芋、餃子などの飲食を中心とした屋台が葵陵会館前に並び、お昼時などの混雑時にはどの屋台も10人以上の行列ができ、番号札を配布するなど賑いをみせました。出店した団体は忙しそうでしたが、笑顔があふれ、葵祭を楽しむ様子がうかがえました。屋外屋台で100円購入ごとにスタンプが1つ押され、複数個貯まると福引ができるという模擬店活性化企画「海闊天空」では、豪華賞品を目指して福引に挑む人の姿も多く見られました。

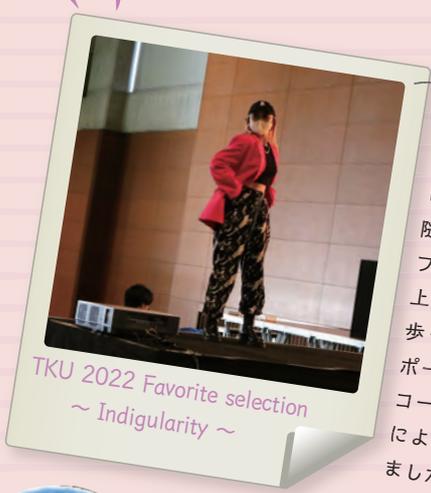
## 葵祭とは

東京経済大学の前身である大倉商業学校の記念祭を引き継ぐ、伝統ある大学祭です。開校時、赤坂葵町(現在の東京都港区虎ノ門)に所在していたことが名前の由来となっています。第123回目となる葵祭のスローガンは「葵想天外(きそうてんがい)」。新型コロナウイルスの収束がみえない現状でも、東経大生らしく誇りを持ち、个性的でかつ普通には思いつかないような大学祭にしたいという思いが込められています。



ゼミ展示

葵陵会館1階カフェテリアスペースでは、ゼミナール連合会がさまざまなゼミの紹介や、制作した作品、研究結果などを展示しました。普段あまり知る機会のない他ゼミの活動を、学生達が興味深そうに見入っていました。



TKU 2022 Favorite selection ~ Indigularity ~

100周年記念館ではファッションコンテストが開かれました。4名の学生モデルが、随所にこだわりを散りばめたファッションで登場し、舞台上に設置されたランウェイを歩き、それぞれが格好よくポーズを決めました。二次元コードを活用した参加者投票により、グランプリが選ばれました。



### 5号館前ステージ・夜の部

3日目の5号館前ステージ(夜の部)では、ビンゴ大会・新次郎池親善大使公開オーディション(池コン)・エンディングが行われました。

ビンゴ大会はゲーム機、ヘッドホン、ボウリング招待券など来場者の想像を超える景品だったこともあり、豪華な賞品をかけ参加者一同盛り上がりました。

今回の池コン出場者は全6名で、来場客の投票と、自己PRを基にした審査員の特別点、池クイズの総得点で順位を競いました(出場者の詳細は以下の通り)。エンディングでは池コン出場者と特別審査員、司会者が壇上を飾り、最後はステージ上に火花が舞う演出とともに、2022年の葵祭は幕を閉じました。

#### 池コン出場者

- ◆朝比奈さん(現代法2年)  
フルーツでディズニーの楽曲を生演奏で披露し、観客のボルテージは最高潮に達しました。
- ◆尾里さん(経営3年)  
音楽に合わせて競技ヨーヨーを華麗に披露しました。
- ◆本間さん(経営3年)  
中国語で歌を披露するほか、自身で考案した一発ギャグも行い盛り上げました。
- ◆石川さん(経営2年)  
自慢の歌で会場の雰囲気の一つにして盛り上げました。
- ◆津村さん(経済3年)  
自転車で時速70km(高速道路を走る自動車相当の速さ)を出すことに挑戦し、同じ所属ゼミの学生から声援を受けながら、最大81km出すことに成功しました。
- ◆岡村さん(現代法3年)  
リフティング100回に挑戦するだけでなく、名前を覚えてもらえるようにアピールをしました。法学検定全国8位の成績を持つそうです。

これらの自己PRなどを通して総得点が最も高かった朝比奈さんが総合優勝し、新次郎池親善大使に任命されました。



### 葵祭実行委員長 メッセージ

第123回葵祭は3年ぶりの対面開催となりましたが、委員や各団体、大学関係者の皆様のお力添えによって無事に成功を収めることが出来ました。本年の葵祭に関わっていただいたすべての方に厚く御礼申し上げます。

葵祭実行委員会第123代委員長 稲垣勇希さん(経済学部4年)



# 東京経済大学の 地域活動



小田 登志子

アメリカ合衆国・コロンビア大学東アジア言語文化学部日本語教授法専攻修士課程修了、コネチカット大学言語学部言語学専攻博士課程修了。アラムカレッジの客員教授を経て2004年4月、東京経済大学に着任。専門は、言語学(意味論ほか)。



東京経済大学は国分寺市内の唯一の大学として、学生や教職員における社会貢献活動を通して地域社会の課題に応え、発展に寄与することをめざしています。今回は活動のひとつ「国分寺市国際協会」での取り組みについて、全学共通教育センター准教授の小田登志子先生に伺いました。

## 国分寺市国際協会（KIA） について教えてください。

国分寺市国際協会（以下「国際協会」）は、1991年に創立されたボランティア団体です。地域に根差した国際化推進のために、在住外国人の方々との交流や相互支援の活動を行っています。2022年10月現在の会員数は約330名（うち外国人会員が約80名です。国際協会では、会員一人ひとりの創意と工夫によるボランティア活動を通して、外国ルーツの方々と交流を深め、相互理解と国際親善に努めています。

具体的な活動内容としては、日本語教室（昼・夜）、国分寺市からの委託事業である「日本語支援ボランティア養成講座」「外国籍等の児童・生徒のための日本語支援サポート」などがあります。その他、国分寺市の主催で毎年行われる市民文化祭の一環として「KIA国際交流フェスタ」を開催しています。詳しくは国際協会のホームページをぜひご覧ください。

国際協会と東京経済大学とのつながりは深く、東京経済大学は国際協会の協賛会員として協会の活動をサポートしています。また、学生は「学生の地域貢献」という授業を通じて、協会活動に参加することが出来ます。

## 小田先生の活動内容は？

国際協会における私の活動は大きく二つあります。一つは日本語教室（夜）において外国から来た人の日本語学習のお手伝いをする事です。今までに、中国・スロバキア・ベトナム・バン格拉デシュ・インドなどから来た人のお手伝いをしました。私は言語学を研究しているため、いろいろな言語を話す人と友達になりたいと思ったのがきっかけです。YouTubeでしか見たことのないような少数言語の話者と出会うこともあり、驚いています。私は以前にアメリカの大学



日本語教室の様子

で日本語の教員をしたことがありますが、国際協会の日本語教室で出会う日本語学習者のみなさんは、英語話者とは得意な部分・苦手な部分が異なることがよくあり、とても興味深いと感じます。

もう一つは国際協会会長としての活動です。2021年度に8代目の会長を拝命しました。国際協会において女性が会長になったのは初めてなのでそうですが、自分では特に意識していません。さまざまな催しで国際協会について紹介したり、協会の運営のお手伝いをしたりしています。

## この活動はSDGsの取り組みにも関わりますね。

SDGsの第4のゴール「質の高い教育をみんなに」に関連した国際協会の活動として、市内の小中学校への日本語支援ボランティア派遣があります（2021年度から市委託事業）。日本語が不自由な子どもが授業を受ける際、教室で子どもの隣に座ってサポートを行います。学齢期の子どもをお世話するには教育上の注意が必要であるため、サポーターを希望する市民に対してサポーター養成講座を開催しています。

第10のゴール「人や国の不平等をなくそう」に関連した活動としては、日本語教室の開催や小中学校で行われている国際理解教育への



ベトナムで写真を撮る際のおなじみのポーズ

協力などが挙げられます。日本語が不自由な場合、どうしても不利益を被りがちになります。近年、日本語話者でない住民に配慮して、日本全国の各自治体では各種のお知らせを多言語で発信するようになりました。皆さんが受け取った新型コロナウイルスワクチン接種の案内にも多言語表示があることと思います。日本語教室では公的サービスではカバーできない面をお手伝いしています。私も病院の予約や履歴書を書くお手伝いをしたことがあります。また、多様な文化を尊重し、人権に配慮する教育を推進するため、国際協会は市内の小中学校の求めに応じて外国人会員を派遣しています。

国分寺市国際協会が実施している日本語教室を訪れ、取材をした学生記者の2人に感想を聞きました。学生記者が作成した記事は、協会HPに掲載されています。



## 10 学生記者



### 経営学部4年 内田 充俊さん

インタビューに応じてくださった方の日本語が流暢で、語彙力に圧倒されました。それを上回るほど印象的だったことは、参加者とボランティアの方の間に笑顔があふれていたことです。日本語を学ぶだけではなく、とても楽しそうに信頼関係を構築していて、素敵な雰囲気包まれた場だと思いました。



### 経営学部3年 有山 詩織さん

中国とベトナムの方へインタビューを行いました。彼らにとって外国語である「日本語」を学ぼうとする姿勢や、学びに対する熱意が伝わってきました。それは「学ばなければいけないから学ぶ」のではなく、「学びたい・知りたいから学ぶ」というものでした。諸外国の働き方を知ったり、日本の魅力を再発見したりすることができ、貴重な経験となりました。

この取り組みに関して、学生へメッセージをお願いします。

近年、日本の人口は急激に国際化しました。そして、多様な人々と共に働き、同じ地域で生活してゆくことが不可欠になりました。この際重要なのは、英語をはじめとする外国語が得意かどうかではありません。もっと大切なのは、異なる文化的背景を持つ人々と共存していく心構えだと思います。困っている人に声をかけたり、相手の行動が期待した通りではない時に前向きに話し合いをしたりできるかどうかが大変だと思います。

日本語話者同士のように「空気を読んでもらう」のは難しい面が出てくると思います。その際、外国語を話す必要はなく、相手にわかる「やさしい日本語」を話せば大丈夫です。

機会があれば、外国から来た人と友人になることをお勧めします。おもしろいことがたくさんあり、視野が広がります。また、外国語が苦手な人は、英語などの外国語に困った時に助けてもらえます。たとえば、私が日本語学習のお手伝いをしているインド出身のサガルさんは、五つの言語を話します(ヒンディー語・英語・コンカニ語・マラーティー語・サンスクリット語)。私がこれらの言語をマスターすることはまず無理です。サガルさんと友達になって助けてもらったほうが良いと思います。

国際協会は地元の大學生の参加を歓迎しています。ぜひ国際協会のホームページ(左の二次元コード)をご覧ください。

## イギリス・チチェスター英語研修体験談

イギリス・チチェスター英語研修が、3年ぶりに開催されました。第30回となる2022年度の研修に参加した、コミュニケーション学部2年の渡邊愛史さんによる体験談をご紹介します。

2022年7月30日(土)から8月15日(月)、イギリスのチチェスターカレッジ英語研修に参加しました。約2週間と短い滞在でしたが、初めて行く土地、初めて食べる郷土料理、初めて過ごす学生寮…とすごく濃い時間を過ごすことが出来ました。

参加のきっかけは高校時代に米国での語学研修があり、他国の学生と授業を受け、市街地を探索し、現地の方と触れ合うことで得られた発見や学びがとても刺激的だったからです。今度はイギリスを実際に訪れることで、メディアを通して知っているイギリスとは異なった、新しい発見や学びを得たいと思いました。

イギリスへ行く前に準備した事は、持ち物の確認と心構えです。あらかじめ旅行会社が提示する持ち物の目安表をもとに、海外変換プラグなどの必需品を購入しました。また、イギリスにおけるタ

ブーを確認したり、自分なりの研修の目標を設定したり、日本文化や歴史について英語で紹介できるように準備しました。3回にわたる事前オリエンテーションで、研修における注意・確認事項を教えてくださいましたので、あまり不安はありませんでした。参加者のLINEグループが作られ、そこで自己紹介をしたり、zoomでお互いに顔合わせを行ったりしていたので、一人で応募しても寂しくなく、他学部・他学年の方々とも交流することが出来ました。

授業は水曜日を除き、毎週月曜から金曜日にかけて平日の午前中3時間、午後1時間で行われました。水曜日や週末は日帰りアウトレットがあるポーツマス、英国最古の大学の町・オックスフォードや大都市のロンドンなど、異国情緒のあるスポットを巡りました。語学学校の博

識なスティーブさんから歴史や地元ネタを話していただけたことで異文化への理解をさらに深められました。

語学研修で得られたものは、異文化理解の他にも英語学習のモチベーション、新しい自分の発見、価値観・視野の広がり、行動力の向上、メンタルの強化などさまざまです。ちょっとした失敗も経験しましたがそこで得た学びはかけがえないものとなりました。興味が湧いたものなど自分から積極的に挑戦していくことで、いくらでもいい経験を自分で作れると実感しました。不安もありましたが、行かなかった後悔は一生続くと感じたので、自分から挑戦して本当によかったです。少しでも語学研修に興味を持った方は、思い切って挑戦することをお勧めします!

コミュニケーション学部  
コミュニケーション学科2年  
渡邊愛史

## 先生インタビュー



先生



青野

先生の研究内容を教えてください。

主に「日本の労働市場における男女差」と「企業内の高齢化の影響」について研究しています。一つ目の

テーマの例として、あるデータを分析したところ、性別役割意識の強い社長がいる会社では、女性比率が低いということが分かりました。また、入社試験と採用についてもデータを見てみると、入社試験では男性よりも女性の方が成績が良いにも関わらず、採用では男性を多く採用するという男女の逆転が起きている企業も一定数あります。特に設立年が古い会社によく見られる傾向であることが分かりました。二つ目の研究テーマでは、企業内の高齢化の影響を調べています。研究とは新しい事実を発見することです。今まで知られていなかった発見をすることはとても面白い作業です。



先生



内田

大学時代にやっておいてよかったと思う経験を教えてください。

部活動でしょうか。大学時代はラグビー部に所属していました。小学生の頃からラグビーに興味はあったものの、なかなかやれずにいました。しかし、大学に入り「今やらなければこの先やることはない」と思い、入部を決意しました。週6日練習や試合があり、大学時代の多くの時間を部活に費やしました。身体作りが大変で、現役時に一番体重があったときは今よりも20kg以上ありました。今は入部時よりも軽くなってしまいましたね(笑)。



先生



青野

大学時代にやらなくて後悔した経験を教えてください。

これというのはないのですが、強いて言えば、「ドラマ、映画、漫画などを鑑賞すること」でしょうか。学生時代は部活に明け暮れていたこともあり、これらに触れた記憶はほとんどありません。自分の人生は一つしか経験できませんが、才能豊かな人たちが集まってできる創作物に触れることで、非常に多くの人生や生き方になれることができます。ドラマや映画、漫画に触れることはその後の人生を豊かにすると思います。最近になって海外ドラマなども観たりはしていますが、全然追いつかないですね。漫画についても、偶然入った飲食店でONEPieceを手にしたこともありましたが、食事待っている間しか読むことができないので、1巻ぐらいいしか読めません。また何か月か後にたまたま入ったお店でONEPieceがあっても、1巻の内容を思い出さずためにまた1巻を読むので、全然追いつきません(笑)。



先生



内田

学生におすすめする本はありますか？

『FACTFULNESS』『国家はなぜ衰退するのか』『22世紀の民主主義』の3冊を紹介します。『FACTFUL-

NESS』は世の中の現状について正しいデータをもとに紹介していて、私たちが思いの外悲観的なバイアスを持っていることを実感できます。『国家はなぜ衰退するのか』では、民主的な政治体制の重要性が強調されています。それと対になる内容の『22世紀の民主主義』では、著者の成田悠輔さんが挑発的な語り口で民主主義を取り巻く話題について論じています。既存制度や既成概念に縛られないアイデアもたくさん紹介されていますので、柔軟な思考に触れることができると思います。これは信頼できるエビデンスをもとに書かれている点や自分の生活圏以外のことについて書かれていますので、視野を広げることができ、非常に有用だと思います。



先生



青野

学生に身につけてほしい力はなんですか？

「自分で考える力」でしょうか。生きていくと日々さまざまなことに直面しますが、何か問題に直面し

た時に、解決策や方法論を自ら考える力が必要だと思えます。その力を向上させる手段としてゼミをおすすめしたいです。東経大ではゼミに力を入れていて、先生方も非常に熱心に取り組まれています。ゼミ活動では大学でしかできない多くの経験を積むことができると思います。これはあまり他国にはなく、日本の大学の特徴であるといえます。私のゼミでは、他大とのインター・ゼミナール(複数のゼミが討論や研究発表を実施する場)に力を入れており、毎年1期ではダイベイトインゼミを行い、2期では研究報告のインゼミを行っています。こういった活動を通してゼミ生には自分で考える力を養ってほしいです。



先生



内田

学生にメッセージをお願いします。

「一生に一度のこの瞬間をどのように使うか」を考えてみてほしいか、がでしょうか。真面目に勉強してほしいという意味ではなく、何か興味を持ったことについて時間をたくさん使い、じっくりと追及すると良いのではないかと思います。



学生記者 右：内田 充俊(経営学部4年)  
左：青野 真依(コミュニケーション学部1年)



# 東経大で出会った「生涯の師」への手紙



～大学は学生と教師の出会いの場～

自由の学府・東京経済大学で生涯の師と出会った学生に思いを綴っていただきました。  
先生からの返信も併せてご紹介します。



## 学生から先生へのメッセージ

えんどう ひろき  
遠藤 大幹  
現代法学部 現代法学科 4年



私が村ゼミを選んだきっかけは、若者の消費者被害を防止するために、自らの経験や意見を述べ、より若者目線に立った教材作成に携わりたいと思ったからです。ゼミでの活動を通して、発信力や傾聴力などコミュニケーションに大事な力が身についたと感じています。これはディスカッションが中心のゼミに所属したことで得られた「賜物(たまもの)」であり、村ゼミで活動することができて良かったと心から思います。

村ゼミでは、昨年度は金融教育に関する教材を、今年度は奨学金制度に関する教材を、中央労働金庫のCSR部門と共同作成しています。制作会社のコンペ、俳優や声優のオーディションなどゼミ生が主体となって取り組めるので、やりがいを強く感じ、学生のうちから貴重な体験をさせてもらっています。「言う」ではなく「伝える」ために、とにかく訴求点を大事にするという考え方は、村先生から学んだことであり、大学教授や法律家として物事を多角的に見て、助言する姿にいつも感銘を受けています。

私は来年の4月から、不動産会社の営業職として働きます。村ゼミで培ったコミュニケーション能力や訴求力を活かし、多くの方々から信頼される村先生のような大人に少しでも近づけるよう一生懸命に取り組んでいく所存です。残りの大学生活、そして卒業後も未永くよろしく願います。2年間本当にありがとうございました！



遠藤さん、お手紙ありがとうございます。「消費者法」のゼミを楽しんでいただけて、良かったと思います。

このゼミのテーマは、「消費者法」ですが、ここ数年は、中央労働金庫CSR部門の協力を得て、「高校生に、消費生活に必要なスキルをどう伝えるか」をテーマに、DVDとワークブック形式の教材を作成する取り組みをしています。民法改正により2022年4月から成年年齢が20歳から18歳になったことに伴い、18歳つまり高校3年生の誕生日までに経済生活を責任ある大人として担うためのスキルを身につけることが必要となったことに伴う企画です。

ゼミでは、ゼミ生が意見を出し合い、企画内容から、事業者のコンペによる選定、演者などのオーディションによる選定、シナリオの作成、撮影への関与やワークブックの作成などを担います。自分が高校生だった時を振り返り、「高校生が興味を持つための工夫」など意見を出し合い、まとめていきます。その中で、さまざまな見方や意見があることを知り、すり合わせて形にしていく経験をしてもらいました。遠藤さんには、積極的に参加し楽しく学んでもらえました。こうした経験をこれからの社会生活で生かしていただけると嬉しく思います。これからのご活躍を応援しています。



## 先生から学生へのメッセージ

むら ちずこ  
村 千鶴子  
現代法学部 教授



## TOPIC 1 第99回箱根駅伝予選会は総合28位

2022年10月15日(土)に立川で開催された第99回箱根駅伝予選会に出場した東京経済大学陸上競技部は、総合28位となりました。陸上競技部の上阪哲也総監督は予選会終了後、「応援ありがとうございました。2km地点のエース大川の転倒というアクシデントが全てでした。今後は一人に頼るのではなく、アクシデントに見舞われても動ずることのない真に強いチーム作りをしていかなければなりません。強豪チームとの差は「力の差ではなく意識の差」(大川選手)、この言葉を部員一同胸に刻み精進してまいります。今後ともよろしくお願ひ申し上げます」とコメントを寄せました。



## TOPIC 2 2022年度9月卒業式挙行 ～62名が新たな道へ～

東京経済大学は2022年9月15日(木)、大倉喜八郎 進一層館(フォワードホール)で2022年度9月卒業式を行いました。今年度は学部生62名がそれぞれの新しい道へ進みました。

学位授与式では岡本英男学長より、学部代表として経営学部経営学科卒業の佐々木涼我さんへ学位記が授与されました。岡本学長は式辞で、いま地球規模で抱える諸問題に新しい答えを導くのは若者の特権であると述べ、卒業生の門出に期待の言葉を贈りました。また、菅原寛貴理事長は祝辞で、本学の前身・大倉商業学校の創立者である大倉喜八郎が大切に「責任と信用」の言葉と、その根底をなす「自助・努力・誠意」の考えについて語り、本学での思い出を心に留めて社会で活躍してほしいとメッセージを贈りました。



## TOPIC 3 【東京経済大学・工学院大学共催】第1回トークセッションを開催

東京経済大学と工学院大学は、2020年5月に締結した包括的な法人連携協定を記念し、双方の大学の歴史を振り返り現在と未来について共有する第1回トークセッションを、2022年10月25日(火)に工学院大学新宿キャンパスのアトリウムにて開催しました。

第1回のテーマは「それぞれのルーツから未来へ大倉喜八郎と渡邊洪基」。会の冒頭で、両大学が研究・教育分野で現在発信している文章をワードクラウドによって可視化させたインスタレーションをアトリウム内のキネティック・ウォールに映し出し、両大学の違いや共通点を視覚的に楽しめる映像を公開しました。

第1部では、本学の村上勝彦名誉教授による「大倉

喜八郎と渡邊洪基 ーともにチャレンジ精神を發揮してー」と題した基調講演が行われました。本学の前身校である大倉商業学校の創立者の大倉喜八郎と、工学院大学の前身校である工手學校の創立者の渡邊洪基の人柄について、村上名誉教授は「将来の見通しが難しい経済不安のなかでは、時代を切りひらくチャレンジ精神が求められる。大倉翁と渡邊翁はその精神性を体現した人物であった」と述べたほか、二人の関係は大倉商業学校と工手學校の創立時だけでなく、多面的なつながりがあったことを語りました。

続く第2部は「東京経済大学と工学院大学 受け継がれるスピリッツとこれからの私たち」と題して、本学の岡本英男学長と工学院大学の後藤治理事長によるトークセッションが行われました。創立者の精神

や想いをそれぞれに受け継ぐ両校の今後の連携について、後藤工学院大学理事長は「似て非なる両大学の個性を生かし、学生や教職員の交流を生み出すことで相互に学びあえる仕組みを創出したい」と語り、岡本学長は「創立者の想いや言葉を改めて大切にして、自大学のこれまでの歩みや今後を見つめ直す機会にすることで、社会に資する学生を輩出するためにより一層邁進したい」と語りました。



## イマドキのTKU生

～今年頑張った事～



※2022年11月取材

